

口吉川地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 平成30年9月20日
午後7時30分～9時30分
- 2 場 所 口吉川町公民館大会議室
- 3 参加者 口吉川地区 20人
市 23人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、企画政策課長、生活環境課長、商工振興課長、農業振興課長、道路河川課長、交通政策課長、学校教育課長、学校教育課副課長）
オブザーバー 5人
傍聴者 11人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 町内の産業廃棄物環境への対応について

【口吉川地区】

日常的に悪臭に困っており、ずっと県や市に何とかしてほしいと言ってきた。このたび悪臭がひどい状況となっている。監視していくとのことだが、何か起こる前に常に監視できないのか。

【生活環境課長】

今回の悪臭がひどい状況については県と市で指導を行い、業者に改善計画を出させた。市としては、事業者が改善計画どおり対応していくようしっかりと監視していく。

【口吉川地区】

悪臭の問題については、地元は以前からもずっと言ってきた。今回の状況については対応してくれたが、日常的に悪臭に困っている。悪臭がある状態では外へ出た子どもたちが帰ってきてくれない、口吉川に住みたいなと思ってくれない。

しっかりと監視してもらいたい。

【口吉川地区】

監視すると言うなら、臭気を計測するなどデータや数字を見るべきである。今回の対策は苦情に対する対策であって、恒久的な対策になっていない。

【生活環境課長】

改善の効果があらわれるまで、事業者に報告を求めたり、現場に立ち入るなどして監視していく。

【口吉川地区】

悪臭はひどくて、堪えがたい。みんな我慢している状況である。今回の説明は4年前と同じである。それでも、このたび悪臭がひどくなっている。6か月経っても改善されなければ、業務停止させるのか。それぐらいの対応をしてもらわないと、今後も同じことが繰り返される。悪臭を何とかしてほしいということが口吉川町民の願いである。

【副市長】

臭気を計測できるのかどうか業者と話をし、計測方法について検討していきたい。また、地域が本当に困っていることを産廃事業者伝えていく。市としてどのようにすれば問題の解決につなげていくことができるか考えていきたい。

【口吉川地区】

悪臭には頭を痛めている。このたびのひどい悪臭については、区長として自ら事業所に行って改善策を示してほしいと要望もした。事業者には県に提出した改善計画をしっかりと実行させて、改善計画どおりに改善させてほしい。

【生活環境課長】

市内の他の同じ業種の事業所は悪臭の問題が出ていないことから、防臭対策は可能である。事業者の責任により改善されるよう、しっかりと指導していく。今回の対応で終わるのではなく、平素のパトロールの際にも事業所の状況を確認するなど指導していきたい。

イ 少子化に伴う学校環境のあり方について

【口吉川地区】

平成30年6月に三木市全体で学校再編を実施するとい

う方向性を示したということについて、どうとらえているのか。ホームページや新聞には掲載されたが、地域住民には示されていない。小学校は統廃合しないということだったのに、地域に説明がないまま、違う話が一方的に進められており、地域が置き去りとなる危機感を感じている。地域住民にしっかりと説明をしてほしい。口吉川地区は、小学校があるから地域コミュニティを維持できている。子どもの数が減っているが、低学年が通う分校として残すことができないか。また、1学年2学級以上という考え方が公立、私立関わらず広く当てはまるとのことだが、公立と私立では全く違う。教育内容は同じかもしれないが、公立は市として学校をこうするんだという思いを持って設置するものであり、一律に基準を当てはめることは公立の特性を失うこととなる。さらに、学校再編は区長協議会の再編につながるという危機感を感じている。市として区長協議会の再編も視野に入れているのか。

【教育振興部長】

市としては、学校再編についての方向性を示してから、地域、保護者などの意見を聴いて修正し、より良いものにしていきたいと考えている。何もない状態では意見も出にくいと考え、教育委員会が気づかない部分について意見をいただくためのきっかけとして方向性を示した。しっかりと地域の意見を聴いてから、方針を決定し、ホームページや広報で示したい。なお、地域部会での意見についても、ホームページ等でお知らせしていく。分校も1つの方法だが、教職員の配当が少なくなることや子どもたちに多様な経験をさせ、社会性や協調性を得る機会が少なくなることから、分校として残すことは難しいと考えている。また、私立と公立では、子供の成長という面から見ると違いはない。公立学校においては、地域の特色を生かした教育をしたいと考えている。さらに、小学校がなくなることは地域に大きな影響があるということについては、子どもたちは学校で育ち、学校から帰れば地域で育っていると認識している。したがって、地域での子どもたちへの関わりが重要であると考えている。地域での子どもたちへの関わりによって、地域の活性化にもつながると考える。

【市長】

区長協議会の再編は考えていない。地域からその必要性があるという提案があれば、そのときに考えたい。

【口吉川地区】

昔の口吉川村は、教育村として村民が誇りを持っていた。地域の協力も素晴らしかったと聞いている。学校の再編については、早々に結論を出さないで欲しい。次の50年、100年につながるものであり、拙速は避けていただきたい。地域づくりと学校は密接に関係しており、地域づくりと合わせて地域と協力しながら、慎重に対応してほしい。

【教育長】

口吉川村が教育村であったということは、お聴きしている。これは口吉川地域の特性であり、尊重すべきものと考えている。昔は、普段の生活の中で生活力を育んできた。しかしながら、現在はそれが困難になっており、学校など一定の集団の中で生活力を育んでいく必要がある。拙速に結論を出すことは考えていない。地元の合意なしで進めることはできないと考えており、地域のご意見をお聴かせいただきたい。

【口吉川地区】

市政懇談会を復活していただいて、風通しのいい市政になったと感じている。地域の諸先輩方の意見も聴いていただきながら、PTAなどの若い方の意見も聴いていただきたい。教育委員会や地域など、みんなでいい案を考えていきたい。明るい政策、素晴らしい政策を見せていただければ、皆さんに納得していただけると考える。

【口吉川地区】

小中一貫校とは、同じ敷地内で小学校、中学校が並立して設置されるものか。それとも、1年生から9年生までが1つの学校に通うものか。

【教育振興部長】

市としては、小学校、中学校を1つの施設で設置する施設一体型の小中一貫校を経て、義務教育学校の設置を目指している。義務教育学校では、校長も1人、職員室も1つとなる。設置当初は大変なこともあるかと思うが、義務教育学校には大きなメリットがある。例えば、小学校と中学校が別であれ

ば中学校に進学するとき、小学校の教員から中学校の教員へ子どもの特性などの申し伝えが必要となるが、義務教育学校であればすべての教員が、1年から9年までの子どもについて把握している状態であるため、申し伝えが必要なくなり、成長への支援が一層しやすくなる。

【口吉川地区】

小学校、中学校が別であれば6年生は最高学年となり、リーダーシップを養うことができる。義務教育学校では、9年生までそれができない。また、9年間同じ学校では中だるみになる。人として小学校の卒業を経験することに意味があると考えている。小学校と中学校との連携はやり方によって解決できると思うので、9年制にする意味が分からない。

【教育振興部長】

異年齢の遊び、社会性を育むような多様な経験ができなくなってきており、現在の小学校でも意図的に1年生から6年生までの縦割りの集団を作っている。義務教育学校で1年生から9年生までの縦割りの集団を持つことは、非常に意味があることであると考えている。卒業式がなくなるのではなく、小学4年生ですでに実施している1/2成人式など、学校行事の工夫で子どもたちに節目の経験を与え、子どもの成長につなげたい。

【口吉川地区】

市外の方から、小中一貫校になっていじめが加速して、なくなると聞いたことがある。入学した時から9年間人間関係が固定してしまい、子どもたちにとってよくない面もある。他市の小中一貫校の事例を検証するなどして、慎重に検討してほしい。

【教育振興部長】

他市の小中一貫校を視察しており、視察先の校長先生に話を聴いている。例えば、登校中に転んだ1年生の子を中学生がおんぶして運んであげたりだとか、バス通学の学校ではバスの乗り降りで小学生を中学生が助けたりするなどの良い事例があるということである。同じ学校で顔を知っているので、自然とそのような行動に繋がると感じている。

【口吉川地区】

学校の再編については、一旦方針を決めてしまうと大きく変えられないと思うので、慎重に協議を進めてほしい。

ウ 町民の買い物対策について

【口吉川地区】

店舗の誘致は非常に難しいと思う。スーパーへの送迎については、市で検討いただければありがたい。細川地区のようにふれあいバスなどを活用した買い物の取組ができればいいと思う。店舗への注文配達が可能だが、注文がなければ配達してもらえない。個人でなく町全体でやろうということにならないと難しいのではないか。

【商工振興課長】

店舗は人が利用しないと経営が成り立たないため、誘致は難しいと考える。注文配達ができるシステムは利用可能で、すでに口吉川地区でも注文配達を利用されている方はいる。また、移動販売は、見守りの機能も持たせることができるなど好評で、近隣市町で実施されている。買い物の問題を身近な問題ととらえていただき、地域で協議の場を作っていただきたい。

【市長】

地域で協議いただき、地域の意見としてまとめていただければ、例えば既存のコンビニエンスストアに野菜や肉などの生鮮食料品を置いてもらうように要望することもできると思う。まずは、地域の要望をまとめていただきたい。

【口吉川地区】

コンビニエンスストアに生鮮食料品を置いていただけなのであれば、買い物の問題は解決できる。近くで買い物ができればありがたい。バスで買い物に行くにも、バス停まで歩くのが大変である。

【市長】

コンビニエンスストアとしても、どれだけ利用があるのかわからなければ、生鮮食料品を置くことは難しい。地域の声をまとめていただき、住民の利用が見込まれるのであれば、要望もしやすい。

【口吉川地区】

まち協の部会で協議し、地域の声をまとめたい。

エ その他

【口吉川地区】

渡瀬のバス停には、社、三木、三田の3つの営業所からバスが走っているが、連携できていないため、乗り換えができない状態である。3営業所が連携をとって乗り換えができるようになれば便利になる。また、渡瀬から神戸北イオン行きのバスが出ているが、口吉川からもバスを乗り継いで神戸北イオンに行けるようにできないか。

【交通政策課長】

渡瀬のバス停での3営業所の連携については、利用者の意見として3営業所に対して要請する。

【都市整備部長】

神戸北イオン行きのバスについては、三木営業所から渡瀬行きのバスと乗り継ぎできるように調整できないか、バス事業者に要請する。

【口吉川地区】

口吉川には道の駅のような広く市民が利用できる公共施設が何もなく、小学校も子どもが減っている。これからの口吉川を市としてどのような位置づけで考えているのか、お聞きしたい。

【総合政策部長】

具体策をここで申し上げることはできないが、現在総合計画の策定を行っている。まちづくりは行政のみで行うものではないと考える。地域と意見交換する場を設けたいと考えているので、その際はよろしく願います。